

錫杖岩・左方カンテから烏帽子岩頂上へ 9月6日

メンバー： N. W K. 0(記)

8月30日(日) 天候：快晴

コースタイム： 取付き登攀開始 5:00～左方カンテ終了 7:50～烏帽子岩取付き(8:30-8:40)～烏帽子岩頂上(9:50～10:05)～西肩コルまで2Pの懸垂下降 10:45～西肩コルからさらに東北沢に向けて1P懸垂下降～登攀具収納(11:30-11:40)～クリヤ谷(12:30-12:35)～錫杖沢出合テント場 12:50

フログ：私の山への興味として、山の頂に向かうルートの取り方の面白さと山の発見的(創造的)な楽しみがある。昨週に引き続き今週も錫杖岳を訪問した。縦走や積雪期を含めて10回目の訪問となった。今回は、烏帽子岩前衛壁から岩塔として聳え立つ烏帽子岩頂上に抜けるルートを登攀した。烏帽子岩の頂上に立ちたいという思いが以前からあった。錫杖岳東尾根は顕著な岩塔である烏帽子岩を経て末端に巨大な前衛壁となってクリヤ谷に落ちている。今までは前衛壁だけの登攀が多かったので、烏帽子岩頂上まで抜ける継続登攀を試みることにした。

そして、今回は快晴の天気に恵まれ、Wさんと二人パーティであったので、左方カンテ取付きから烏帽子岩頂上まで4時間50分で抜けることができ、特に烏帽子岩ではクラシカルルートに新たな発見と感動を味わうことができた。今回も快心の登攀であった。

なお、Wさんはヒマラヤメントーサ峰の遠征で共に一次アタックした友人であり、この度小さい頃に見た錫杖岩を登りたいという長年の夢を果たすことができた。Wさんにとっても快心の登攀となった。

概 要： 早朝3時半起床、準備に掛かる。4時過ぎに錫杖沢出合いを出発、明け始めた左方カンテ取付きに到着し5時ちょうど登攀を開始した。後続パーティも少し遅れて登攀を開始。落石ないように気を遣う。

2Pでカンテ下へ、3P目は右へ出て垂壁のフェースをフリーで越え、さらに前方のチムニーに入りロープを伸ばす(45m)、4P目は快適な左壁フェースを登ってチムニー下のテラスへ。5P目の最初はズルをして松の木を利用して登る。6P目ははがれそうなフレイクをホールドにして登り、安定したブッシュ帯まで一気にロープを伸ばす(50m)。7時50分終了、ここで一旦ロープを解いた。

この後、踏み後を頼りに前衛フェース頂上に至りさらに尾根通しに烏帽子岩の基部に達した。ここでゆっくり休憩を取る。ルートの1P目はかぶり気味のフェースを登り右へ回り込んでから直上後テラスへ(20m)。2P目は出だしの悪いフェースを直上してテラスへ(20m)。3P目は右下へ約10mトラバース、その後ブッシュ帯から凹角に沿ってチョックストーン下まで(40m)。4P目は大きいチョックストーンの挟まったチムニーを越えてテラスへ(15m)。5P目は大きい岩の割れ目(チムニー)の左側フェースを快適に登って終了(20m)。素晴らしい天気に恵まれ、最後は烏帽子岩頂上に飛び出す予想通りの感動的な継続登攀ルートであった。

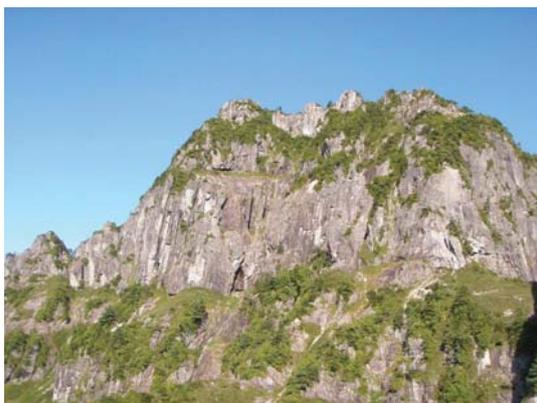
頂上からの下りは、西肩コルに向けて懸垂下降した。1P目は下降支点がセットされていたが、2P目の支点が見あたらず、40m程降りたところで残地ピトン3本をスリングで繋ぎ下降支点をつくる。安定しない場所のため、久しぶりに途中停止技術を要求させられた。20mでコル下に降り立つ。

西肩コルから東北沢に向けては、草付きとなっていてフリーでも下降できそうであったが、安全を期してロープを利用して50m下降後ロープを回収収納した。あとは踏み後を辿ってクリヤ谷の縦走路へ出た。

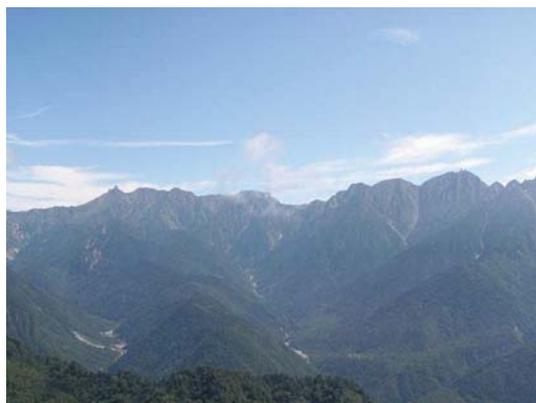


←烏帽子岩

↑前衛フェース



錫杖岳本峰



穂高連峰



左方カンテ5P目



烏帽子岩2P目



烏帽子岩最終ピッチをリードするWさん

番外編



前夜はバーベキューで
力を付ける

コンロ、炭を用意
食材は不参加となった
I. Oさんが準備